

| 会議記録書 | |
|-------|-------------------------------------------------------|
| 会議名 | 第34回草津市図書館協議会（委員発言・質問、事務局事業説明・回答要旨） |
| 日時 | 令和4年2月25日（金） 10：30～12：00 |
| 場所 | 草津市立図書館 3階 大会議室 |
| 出席者 | 岸本会長、内田委員、中瀬委員、田中委員、新谷委員、角委員 事務局（武村館長、二井副館長、大西専門員） |
| 傍聴者数 | 1名 |
| 記録作成者 | 図書館 二井副館長、齋藤 |

1. 開会挨拶（武村図書館長）

- ・本日は、令和3年度に実施したアンケートの速報値と、令和4年度の事業計画について御報告いたします。特に、令和4年度は南草津図書館が開館20周年、令和5年度は本館が開館40周年を迎えることから、2か年に渡って周年記念事業を計画しておりますので、御意見をいただければと思います。
- ・本日は、協議会への御出席は初めての委員もいらっしゃいますので、改めて簡単に自己紹介をお願いいたします。

《委員自己紹介》

2. 議題

（1）令和3年度図書館利用者アンケートについて

【今年度のアンケートについて】

- ・前年度から引き続き、図書館の用語解説とセットにして配布した。
- ・アンケート項目について、昨年度は周年記念に期待する内容についての項目を設けていたが、今年度は、その内容について一定の計画が定まったことから削除した。
- ・回答者の年代について昨年度までは70歳以上を一つの選択肢としていたが、昨年度の図書館協議会での御意見を踏まえ、70代、80歳以上と選択肢を分けた。
- ・アンケート裏面（チラシ部分）も昨年度の図書館協議会での御意見を踏まえ、二次元コードの数を減らし、見やすいレイアウトに変更した。
- ・用語解説も内容に大きな変更は無いが、シンプルな表現や、見やすいレイアウトを心がけた。
- ・乳幼児、児童向けサービスについては対象年齢別に行っている事業であるが、各事業の対象年齢や開催時期が浸透していないという傾向があるので、事業名・対象年齢・開催時期が結びつくように表にした。
- ・アンケートの配布について、今年度は図書館外の市の施設や市内の高校にも設置した。
- ・アンケート配布、回答期間は令和4年1月5日～1月31日、紙と電子での回答を可能とした。
- ・回答数は859件（うち電子回答が348件 全体の40.5%）であった。昨年度の回答数は549件（うち電子回答が257件）であったため昨年度以上の回答を得られた。
- ・ICタグを用いた貸出や、自動貸出機、Web検索についての項目は、高齢者層の「未回答」が目立ったので、その層に利用が浸透していない、言葉の意味が分からない、馴染みが無いということがうかがえた。
- ・コロナ対策への不満（臨時休館、机・椅子の間引き、衛生面など）が自由意見に多く見られた。
- ・結果の分析や自由意見への回答は次回の協議会にお伝えする予定。

《委員意見》

- ・ 去年より回答が増えたというのは、回答期間が昨年度よりも長かったということもあるのか。
→ アンケート実施期間については昨年度よりも短かった。配布数や設置場所は増えたというのと、電子回答が浸透してきたことや、「次回来館の際に提出いただければ」という案内にして、その場ではなく帰宅後にゆっくり回答いただく方針としたことが効果的だったのではないかと考えている。
- ・ 対象年齢を設定している行事について、現状、実際に参加するのは設定した年齢とギャップがあるということか。
→ ご指摘の通り。児童向け行事に参加する子どもたちの低年齢化が進んでおり、おはなしのじかんや、おはなし会でも乳幼児の申し込みが多かった。どの年齢でも参加は歓迎であるが、担当司書は、対象年齢に合わせて演目を決定していることや、現在はコロナ対策として参加人数の制限も行っていることから、改めて対象年齢の周知をしたいと考えた。
- ・ キラリエ草津が開館し、ココクル広場もできたが、そこに人が集中し、他のサークルやイベントに子どもが集まらなくなったと聞く。行く場所がたくさんあるということは良いことだと思うが、競争になると意味がないと思うので、他施設のイベントとの日程・時間の調整も必要だと思う。
→ 図書館としては、公の施設のイベントは年間計画からなるべく重ならないように設定をしたり、ココクル広場については図書館の司書が講師となり絵本の読み聞かせの研修したりなど連携をはかっている。今後は今の御意見を参考にうまく相乗効果がでるように連携の輪を広げることを検討したい。
- ・ 年齢別のWebと紙回答の割合について興味深いので、次回の詳細報告時をお願いしたい。
- ・ 館内の読書環境に満足していない方が他の項目に比べて多いのは、コロナ対策の影響や、守山市と比較されてしまうことも要因にあると思う。守山市立図書館が新しくなってから、守山から草津の図書に来る人はかなり減っている。湖南4市（草津市・栗東市・守山市・野洲市）が連携して利用するため、利用者もやはり自分の居心地のいい図書館を選んで通うことから守山市と設備面で比較されてしまうのは仕方ないかもしれない。そのあたりの分析も次回をお願いしたい。
→ 各項目について次回に改めて分析結果を御報告したいと考えている。読書環境については、元々スペースは広くなかったことや建物・設備の老朽化も進む中でコロナ禍において机・椅子を一部撤去しているため、読書スペースがないという不満が多いと予想している。
- ・ 速報段階で、本館と南館のそれぞれの強みがアンケート結果に出たと思う部分はあるか。
→ 設備・資料の老朽化や狭いスペースの問題が予算的にすぐに改善できない中、司書のスキルを磨いて提供するサービスの質を維持してきたので、職員の対応に対する満足度を今年度も高く評価していただいているのが、職員の励みになると考えている。
- ・ 職員の対応と言え、草津市図書館友の会のメンバーである早田リツ子さんが「第一藝文社をさがして」という本を出版された。出版に至る過程で、図書館で色々な資料を探してもらい、それを手がかりにしたということで、その中でも草津市立図書館が特に良い働きをしたと書いていらっしやう。レファレンスサービスの生み出した結果であると思う。

(2) 令和4年度の図書館運営および事業計画について

【令和4年度の新たな取組について】

◎本館

- ・移動図書館車「わかくさ号」による全域サービスの充実

令和3年度までは市内8コース合計25か所を月に1度巡回してしたが、令和4年度からは「de 愛ひろば」「ai 彩ひろば」「キラリエ草津」にも巡回する。「キラリエ草津」への巡回開始にともない、「大路まちづくりセンター」への巡回は終了となり、27か所を月に1度巡回する形となる。

- ・建築物定期修繕是正修繕

3階の防火シャッターの作動不良が指摘されたため、修繕を行う。

◎南館

- ・フェリエ南草津健康増進施設他空調設備改修工事実施設計

フェリエ南草津の5階6階（行政施設部分）の空調機器を更新するにあたり、設計を委託するもの。

- ・フェリエ南草津 全体共有部分修繕費

行政施設、民間施設含め共有部分（防火設備、屋上の防水改修等）

- ・周年記念事業費（南館開館20周年）（詳細は後述）

《委員意見》

- ・移動図書館のステーションを増やすということだが、現状の利用はどのくらいあるのか。

→令和2年度の貸出冊数は12,287冊、利用者数は延べ1,873人である。しかし、図書館から遠い地域と近い地域の格差をなくすという課題解消のため、令和3年度（今年度）に令和2年度からステーションを増やした。特に60歳以上の方が多く住んでいる地域を重点的に巡回するようにステーションを配置した。そのため、現在は移動図書館車の巡回が根付くように開拓している最中で、根気よく巡回することで少しずつ利用者が増えてきているような現状である。

- ・学区ごとで利用に差はあるのか。特に利用の少ない学区などがあれば今後も工夫をお願いしたい。

→図書館としては自治会長のアドバイスなどを参考に利用が見込めそうな場所をステーションの設定をしているものの、どうしても学区によって利用数に差は生じる。来年度以降の利用実績も見ながら、どのような工夫が有効か検討する。

- ・新しいステーション3つはどのように設定したのか。市外の方もたくさん利用があるかもしれないと感じたが、そのあたりも狙いに入っているのか。

→御指摘のとおり、市外の方の利用も考えられる。湖南4市（草津市・栗東市・守山市・野洲市）に在住の方は御利用可能であるが、それ以外の市の方は利用券の作成はできない。そのことについては丁寧な説明とともに、御自身の地域での図書館利用のきっかけづくりになればいいと考えている。

新ステーションは、令和2年度の2月議会の代表質問で、「de 愛ひろば」「ai 彩ひろば」に移動図書館をという議員意見をきっかけに検討して設定した。キラリエ草津についても市民からの声があり、子育て支援の一環という観点からも、新たに設定した。

- ・移動図書館の利用は時間帯も重要であると思う。例えば、こども園の近くのステーションはお迎えの時間帯など。他市では学校の休み時間に移動図書館車がやってきて利用が多いという事例もある。
- ・新しいステーションの設定は定着するのは時間がかかるだろうが、ゆっくり本を読む場所を探している人は多いので、移動図書館で本を借りて公園でくつろぎながら本を読むことができるというのは良い取組になると思う。「借りて終わり」ではなく、「借りてその流れで読む」という需要を考えると、運行時間はもう少し早い時間のほうが良いステーションもありそう。

→各ステーションの近くの施設から時間帯の御希望があり、全てを反映することができないが、今後の利用状況を踏まえて検討していきたい。また、本市の移動図書館全体としては高齢者や図書館から遠い地域の方々をメインターゲットにし、学校とはブックンや出張ブックトーク、団体貸出等、他の事業で連携をはかることに重点を置きたいと考えている。

- ・運行情報は、SNSを活用してリアルタイムに近い情報を発信するのが効果的なのではないか
- ・現状は自発的に情報収集をしなければ運行予定を知ることが出来ないと思うので、図書館だけではなく、ステーションの近くの地域に広報の協力をお願いし、生活の中でこの辺りに移動図書館車がくるのだということが目に入るようになると良いと思う。

→現状は、図書館ホームページ、市の広報の他に、各地域まちづくり協議会発行の地域情報紙にも情報を掲載していただいている。更なる周知方法は今度の検討課題としたい。

- ・新しいステーションも含め、各ステーションでメインターゲットやメインの利用者層が異なってくることを運営も把握して切り替えていくことが今後の移動図書館運営に求められる。その時に、単にSNSを使うのではなく、それぞれのターゲットにどうアプローチしていくかを考えていく必要があることが今後の課題だろう。

【周年記念事業について】

- ・令和4年度に開館20周年を迎える南草津図書館と、令和5年度に開館40周年を迎える草津市立図書館において、「さらに、市民のための図書館へ」をコンセプトに掲げ、日頃からご利用いただいている方への感謝の気持ちと、今後も多くの方になお一層御利用いただけるよう2か年にわたり周年記念事業を実施する。令和4年度は20周年を迎える南館で主に3つの事業を展開予定。

①YA向け記念講演会

2か年の中で3回記念講演を実施予定であるが、令和4年度は南館主催でYA（中高生）向けの講演会を7月に実施する。

②児童コーナーリニューアル

7月に完成に向け取り組んでいく。また、長く読み継がれている定番本のうち、傷みの激しいもの（目安として150回以上貸出のあるもの）を買い替える計画をしている。完成時には記念展示を行う。（令和5年度には本館で同様のリニューアルを行う）

③周年記念デザイン作成コンテストの実施

周年記念事業の告知や、令和5年度に作成予定のオリジナルノベルティ等に使用する記念のデザインを令和4年度にコンテスト形式で募集する。また、図書館で出会った思い出の本などを募集し、展示する企画も予定している。

【委員意見】

- ・ボロボロになるほど読み継がれたという事実は素晴らしいことであると思うので、買い替える本を捨ててしまうのではなく「これからも大事につかってください」という意味を込めて展示あるいは、Face bookなどで利用者の目に見える形にすると「150回借りられるとこんなにボロボロになるんだな、大事に扱おう」と利用者も意識できるのではないか。
→参考にさせていただきたい。
- ・本の修理は館内で行っているのか。図書館によってはボランティアが修繕を行っているが。
→現在は館内で職員が他の業務の合間に行っている。
- ・講演会を依頼する方はもう決定しているのか。また中高生が企画や運営に携われるような仕組みづくりをするほうが、より良いのではないか。
→令和4年度に行うYA向け講演会の講師は何名かの候補に絞って交渉している段階。市内中高の学校司書にリサーチをして中高生に興味を持ってもらえるような内容にしたいと考えている。また、おっしゃる通り、大人のオススめよりも同世代のロコミの影響力が大きい世代と考えているので、中高生の運営ボランティアを募り、企画に携わっていただく計画もしている。
- ・周年記念事業のメインが子どもたちに向けてのものであることは、これからの利用につながり良いと思う。学校や保育施設を巻き込む形で連携をしていければと思う。特に、記念デザインコンテストなどは、学校と連携しやすいかと思う。
→学校、幼稚園、保育園、こども園には色々な形で連携をはかりたいと考えている。
- ・児童コーナーリニューアルについて、アンケートの自由意見で児童コーナーや児童資料の汚さについての意見が毎年出ていたと思う。せっかくの機会なのでそういったこれまでの声も反映できるような環境づくりを期待している。
- ・南館で児童コーナーに対して実際に何か意見をもらったことはあるか。
→スペースが狭いということや、限られたスペースの中でも子どもたちが色々な本に出会える工夫を希望する声があったと職員から報告を受けている。アンケートに寄せられた御意見も踏まえて環境づくりをしていきたい。
- ・児童コーナーをリニューアルすることによって、子どもたちの利用が増えることは望ましい一方、「静かな図書館」を求める層の希望には沿えない可能性も想定されるが、なにか対策を考えるのか。
→現状も構造上ワンフロアで色々な世代の方が空間を共有しているので、今回のリニューアルに合わせて特別何か対策することは考えていない。普段から「静かな図書館」を求める御意見と「子どもが注意されそうなので利用しづらい」という御意見があるため、現在も定期的に設定している子どもたちが主役の「キッズデー」などの取組は引き続き行っていく。

(3) その他

【図書館協議会交流会（令和3年11月13日（土）於滋賀県立図書館）について】

（参加委員より）

- ・図書館と市民がどう関わっていくか、図書館の役割について、法律的なことをベースに具体的にお話いただいたことが参考になった。
- ・参加者同士の交流というのがコロナ禍で減ってしまったのは残念だが、県内の図書館が好きという気持ちをもった参加者が集っている会という感じで刺激を受けた。
- ・協議会の交流という機会があるのは滋賀県だけであり、誇るべきことである。今年度参加できなかった委員は次年度にぜひ参加してほしい。

【YAコーナーのオリジナルキャラクター（スクスクリーフ）の活用事例について】

- ・スクスクリーフとは、平成30年に、市内の中高生から案を募り、利用者の投票によって決定、誕生したキャラクター。
- ・「スクスクリーフの木を育てよう」
葉を模した用紙におすすめ本の紹介を書いてもらい、みんなで読書の木を育てていこうという企画。
- ・「何でも掲示板（質問箱）」
YA世代から悩みや質問を募集して、スクスクリーフが返事と一緒にその答えに合うようなおすすめ本を紹介する企画。
- ・ホームページ内のYA向けページ作成
図書館のホームページ内にYA向けのページを作成し、スクスクリーフも登場させている。
市内の高校生が作成したPOPをYAコーナーに展示しているが、それをホームページ上にもアップするなど来館のきっかけづくりになるようなページを作成していく。

【連絡事項】

次回、令和4年度1回目の協議会は6月開催予定です。よろしくお願いいたします。

12:00 閉会